

⑤ 瀬尾まいこ 著

『そして、バトンは渡された』

(文藝春秋)

2019年本屋大賞受賞作品です。

主人公の優子は、水戸・田中・泉ヶ原・森宮と4度も名字がかわっています。母2人に父親3人血のつながらない親にリレーされ育てられてきた彼女が結婚するまでのストーリーです。

何度も名前が変わっていますが、全ての親から愛されて育った彼女は自分の生い立ちを不幸とは思っていません。現在の父親とのやりとりもぎすぎすした感じではなく最後まで読み終わると少し温かい気持ちになれます。(N.T.)

⑦ 二宮敦人 著

『世にも美しき数学者たちの日常』

(幻冬舎)

私は、数学が苦手である。しかし大人になって学校で教えられた数学だけが数学ではないらしいと気づき始めてからは、本書のような、数学が苦手な人でも楽しめる数学の本に少しずつ手が伸びるようになってきた。数学に魅了された人々との対話を通して覗き見る数学者たちの日常。天皇陛下の前で自作の素数の歌を歌ったり、「GW明けの月曜一限とかありえない」ため授業を休講にしたり、あまりにも自由な、しかしどこまでも誠実な数学者たちの姿には憧れすら覚える。私のように中学時代に数学アレルギーを発症した人なら、本書で少し軽減するかもしれない。(N.S.)

410 ||Nin



⑥ 白川寧々 著

『英語ネイティブ脳みそのつくりかた』

(大和書房)

本書で筆者は、日本語で思考し英語で話すのではなく、英語で思考し英語で話す「ネイティブ・マインド」を提案しています。身の回りのものにその英語名を書いたポストイットを貼りまくる、ルー語で独り言を言ってみる、お気に入りのドラマのアテレコをしてみる、などユニークな方法で「日本語版の自分」と同様の「英語版の自分」をつくりあげ、日本語を話すように英語を話すことを目指します。

本書はよく見かける英語本とは少し違う視点から、「英語を話す」ということを見直すきっかけになることでしょう。(N.O.)

830.7 ||Shi

⑧ ライダー・キャロル 著 栗木さつき 訳

『バレットジャーナル  
人生を変えるノート術』

(ダイヤモンド社)

バレットジャーナルは、スケジュール帳、日記、ToDoリスト、習慣トラッカーなどを1冊のノートにまとめたノート術です。シンプルな方法で、かつ自分の生活に合わせたノートを作ることができます。日々忙しく、過剰な情報にさらされる環境で、どうすれば頭のなかを整理できるのか、物事に集中して取り組めるようになるのか。そんな多くの人の悩みに応え、バレットジャーナルは世界的なブームになりました。本書では考案者のキャロル氏が自身の体験を交え、そのメソッドを紹介しています。(S.O.)

002.7 ||Car